ワークショップにおいて、各委員から出た意見（付箋）【Bグループ】

知る

読みとる力

子どもの声

子どもの気持ちを考える。

子どもに寄りそい意見を聞く。

子どもの想いを聴く。

子どもの思いを受け取る。表現が不十分なりに子どもがどんな感じ方をしているのか知ろうとすることから理解が始まる。対話的関わりを大人に！

“子ども”を知る。
「生理的早産」として未熟な状態で誕生する人類。
大きな可能性とともに危険性をはらんでいる。
教育関係者も含めて学ぶことが大切。

子どもは宝

子どもは社会の宝。

社会・宝

子どもはたから大人が子供を守る。

子どもは愛情をもって育てられるもの

愛情

子ども主体

自由に意見を出せる場づくり

子どものやりたいことを応援する

子どもを主体に大人も教えてあげる

子どもらしく、生き育っていける環境づくり

大人の役割

今回の取組みが、単に子どもの権利を尊重し、子どもの要求や意見をそのまま受け入れるのではなく、子どもの成長段階に応じ、大人が適切に判断することが求められる。

子どもが子ども（友達）を“いじめる”ことが、いかに「子どもの権利」に反することかを盛り込みたい。

自分がされていやなことは相手にもしない。

すべての

すべての子ども

孤独感、不安の強い親へのアプローチ

親が幸せだと子どもも幸せになる

つながる

地域と学校が連携し、家庭環境を知る。

共に育てる

切れめのない支援

地域で子どもや子育てができる環境づくり

地域のつながり

信頼関係

子どものありのままの存在を認め、応援できる社会

交わり

どんな大人に育ってほしい

具体的に

子どもの権利が守られた後町はどのように変わるのか変わっていくべき先に具体的な目標を設けたい。

取組み内容が抽象的な文言に終始することがないこと。